

## ハーブ王子こと山下智道さんを招いての野草観察会(ビギナー編)

この時期は伸びに伸びて困ってしまう雑草もハーブ王子の手にかかれば野草の楽園に。ただ身体に良くおいしいものもあれば、毒があるものも。私には全然見分けがつかず、まだまだビギナーを抜け出すには時間がかかりそう…

脱ビギナー編は10月26日(土)開催!



上毛町ファン急増中!

## 上毛町ならではの体験や魅力を詰め込んだ「こうげキャンプ」大成功



9月15日(日)から16日(月)にかけて上毛町ファンクラブ主催「こうげキャンプ」体験型イベントが、大池公園ログハウスを拠点に上毛町各所を巡りながら行われました。「農作物の収穫体験」を皮切りに「からあげづくり体験」「こうげBBQ体験」「巢狩山登山体験」「ピザ作り体験」「東山窯陶芸体験」と盛りだくさんの内容で地元の方々の協力を得ながら進められました。巢狩谷グリーンツーリズムとのタイアップで行われた巢狩山登山は天候にも恵まれ頂上からの景色も最高でした。また登山後はそのままピザ作り体験となり大いに盛り上がっていました。

地域づくり活動団体同士でタッグを組んで上毛町を盛り上げている事にとっても意味があると感じました。参加者はたくさんのお土産を手に大満足で上毛町を後にしていました。

上毛町ファンクラブ、巢狩谷グリーンツーリズム、お手伝いをされた有志の方々お疲れ様でした。今後も地域の人や魅力ある資源を繋ぎ、町内外に広くPRしていきましょう。



地域おこし協力隊が行く!  
こうげの町カレンダー

9月

## 大迫力の神楽

八坂神社で行われたとへら祭で初めてお神楽を見ました。関西ではあまり馴染みがなく、必死にシャッターを切っていたけれど神楽の引き込まれるような迫力はすごく新鮮で印象的でした。



7月

## 提灯で彩られた百留横穴墓群

ぼんやりとした灯りがご先祖様を迎えます。お盆の時期だけにみられる幻想的な風景でした。



8月

## 大ノ瀬官衙遺跡が花公園に! まずはひまわりから…

8月の残暑厳しい中、道の駅しんよしとみ横の大ノ瀬官衙遺跡にひまわりが咲き誇っていました。また道の駅ではひまわりの無料配布もありました。もらえた人はラッキーですね。

もうすぐマリーゴールド、コスモスが見頃を迎えるそうですよ!



花言葉は「あなただけをみつめる」素敵すぎます!

## 上毛に実りの秋到来

祖父が田んぼ(西友枝)の稲刈りをするということでお手伝いに行きました。コンバインが入れるように畦の回りだけ鎌で刈りました。あまりの暑さにめげそうになりながらも稲穂の重みを体で感じ、大地の恵みに感謝した一日でした。

お米づくりは八十八日間収穫の時



<https://ja-jp.facebook.com> 上毛町フェイスブック



▲陶器にもお気に入りの魚拓を入れて…

## えっ、この絵が魚拓?

魚拓といえば、大きな魚をドンッと墨でかたどったものをイメージしていたのですが、見せていただいた魚拓は絵にしか見えないほどカラフルで繊細でした。どうやってこんなような模様を出すことができるのか松井さんにお聞きしました。

魚拓はまず、魚に糊を塗ってテトロンという薄い布をかぶせ、一度乾かしてからタンポで油絵具を付けていきます。色を付けていくときも一度で塗ってしまうのではなく、下地から何度も異なる色を重ねて塗っていくこと。そうすることで魚の質感を表現していくのだそうです。

魚拓の面白さは、ちょっとした色の出し方も作る人のセンスや技術に左右されると。モデルの魚をただ忠実に再現するのではなく、色合いなどを自分なりに変化させたりできるのも魚拓の醍醐味だといえます。

同じ方法で魚だけでなく、植物の葉などでも作品を作ること。他にもカキの殻を使って作品中の岩を表現したりと、様々なものを使うことで表現の幅が広がるとのこと。

松井さんが魚拓を始めたのは意外にも50代になってから。釣具屋さんでもらった魚拓の作品が載ったカレンダーを見たときに「自分でやってみよう」と始めたのがきっかけで、今も週に一度黒崎まで習いに通っているのだそうです。

最近では老人会へ自身の作品を景品として提供したり、げんきの杜へ作品を展示して活動の幅を広げているそうです。

タンポで丁寧に色を打ちます!



◀目を筆で書き入れたらひとまず完成! 同じ作品が2つとないことも魚拓の魅力です。

訂正/前号こうげの匠上川氏の記事内で「成恒神楽保存会の会長」とありましたが、正しくは「成恒神楽講の講長」です。訂正してお詫言います。

## 今にも泳ぎ出しそうなリアルな魚拓



匠の技に感激!

「げんきの杜に作品を出す時、子どもたちが喜んでくれるそうです。」そう話す松井さんの表情はどこか誇らしげにも見えました。



## 松井益世さん(土佐井)

幼いころから釣りが好きだったという松井さん。50代になってから始めた「魚拓」をご紹介します。